研究課題名

「　我が国における前置癒着胎盤の周産期管理に関する調査　」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（承認番号　H28中倫小第27号）

調査実施についてのお知らせ

総合周産期母子医療センターでは、

我が国における前置癒着胎盤の周産期管理に関する調査を実施しております。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　平成28年 8月 25日

【研究課題名】

我が国における前置癒着胎盤の周産期管理に関する調査

【研究期間】

2016年8月25日〜2017年12月31日

【調査対象】

2010年1月1日から2014年12月31日において沖縄県中部病院にて分娩された方のうち前置癒着胎盤と診断された方を対象とします。

【研究目的・意義】

(目的)本研究の目的は、前置癒着胎盤症例のうち胎盤を残した状態での子宮温存を行った方の産後経過を明らかにすることです。

(意義)前置胎盤は分娩時に大量出血を生じる妊婦異常のひとつです。特に帝王切開術や子宮内容除去術などの既往子宮手術後における前置胎盤例では、胎盤が筋層に強固に付着する「癒着」の合併に注意する必要があります。この「前置癒着胎盤」の管理法は、胎盤と子宮を一緒に抽出する方法、もしくは癒着した胎盤を残した状態での子宮温存の2つに分類されます。次回妊娠の希望が強い場合には子宮温存が理想的です。胎盤を残した状態での子宮温存の場合、分娩後の感染や異常性器出血などの合併症も指摘されておりますが詳細は不明です。そこで、全国レベル調査を行い、多数例の検討により前置癒着胎盤における子宮温存の安全性を検討することが必要です。本研究により前置胎盤、特に前置癒着胎盤の現状と問題点が明らかになれば、よりよい周産期予後が得られる妊娠管理法の普及を図ることが可能となります。

【研究の方法】

診療録から臨床情報(年齢、妊娠形式、胎盤の位置の詳細、分娩週数、分娩後の経過など)を収集します。全国レベルで同様の調査を行い、前置癒着胎盤症例のうち胎盤を残した状態での子宮温存を行った方の経過を解析します。

【個人情報の取扱い】

1）本研究で取り扱う患者さんの個人情報は、氏名と患者番号のみです。その他の個人情報(住所、電話番号など)は一切取り扱いません。

2）本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報をすべて削除し、第3者にはどなたのものかわからないデータ(匿名化データ)として使用します。

【研究機関】

本研究は全国周産期医療連絡協議会参加施設(全国の周産期センターとそれに準ずる施設計178施設：2015年2月時点)を対象とした共同研究です(本共同研究代表者：宮越敬　慶應義塾大学医学部産婦人科専任講師)

【本研究に関する問い合わせ先】

セクション名：沖縄県立中部病院　総合周産期母子医療センター

氏名：橋口幹夫

住所：沖縄県うるま市字宮里281番地

電話番号：098-973-4111(代)